

◆講習会等

「青色申告って何？」漁家経営講習会開催

水産業改良普及センター本部駐在 平安名 盛正

1. 目 的

沿岸域の環境悪化に伴い、漁業生産の減少する中、これまでのようなドンブリ勘定での漁家経営では立ち行かなくなることには目に見えている。このため、漁業者一人一人が、経営者としての自覚を持ち、コスト削減を意識した漁業を考える必要がある。このため、まずは漁業者本人よりも配偶者である奥さん方をターゲットにした意識改革を目指し、今回の経営講習会を開催した。

2. 方 法

このような経営に関する講習会は、商工会主催や農業経営においてはたびたび開催されていることは耳にするが、水産においては初めての試みである。そこで、北部青色申告会の協力を得て、今回開催することができた。北部青色申告会は、1974年設立の任意団体であるが、青色申告に関しては会員に対して講習会だけでなく、申告書の記載指導まで実施してる団体である。そのため、北部域において婦人部活動が活発で、まとまりのある組織を選定した中で、伊江漁協婦人部を選んだ。伊江漁協婦人部は、会員30名あまりで、毎年島内で開催されている伊江島マラソンやユリまつりにおいては、魚汁やテンプラを直売し、現在は直営のはにく店と磯店というお店も経営している。このように

活動において意欲的に活動しながらも、活動のマンネリ化や世代間のギャップに思い悩む一面もあり、世代を超えて取り組める活動として、そして将来の漁家経営において、営漁簿記帳の必要性和青色申告のメリットに関して青色申告会連合会事務局長である仲本 政祥氏を講師として招き、講演頂いた。

3. 結 果

婦人部9名、漁業者1名と漁協、役場各1名の出席があり、午後1時過ぎから講習会を開催した。出席者からは青色申告による控除に関してかなり関心が高かった。しかし、日々の家計費以外の漁業収支に関する記帳に関して、習慣化させるには更なる個別指導や記帳指導等の必要性を感じた。

4. 考 察

漁業収入の減少を敏感に感じるのは、やはり家計を預かる女性であり、その女性の意識を変えることが、専業漁業者として営めるキーポイントであることは間違いない。しかし、記帳や領収の保管等めんどくさいことを習慣化することは並大抵のことではなく、その必要性を浸透させることが重要である。小規模、大規模にとらわれず、講習会や指導活動を何度でも実施することが求められている。

